

弔 辞

棚瀬一代先生、今こうしてご霊前に立ってみても、私たち子どもと離れて暮らす親一同、まだ気持ちの整理がつきません。先生にお別れの言葉を述べなければなりません。そのことが信じられません。

私たちにとっては、先生の教えは、試練を乗り越え、愛する我が子との絆を繋ぎ続けるための希望でした。多くの者が先生の著書や教え、暖かく優しいお言葉に救われました。

棚瀬先生と私の出会いは、平成23年10月末に放送されたNHKワールドの番組で、私は番組の前半、先生は後半に出られました。番組は世界に向けて放送され、世界中から寄せられたコメントは素晴らしいものばかりでした。先生は「素直に物を言えてよかった。大病をした後、この番組がきっかけで自信を取り戻したのよ。」とおっしゃっていました。先生とお会いするたびに、私に「涙を流すあなたの姿は、日本人の父親も子どもをこんなにも愛しているのかととてもよく伝わり、素晴らしかった」と優しい声で褒めてくださり、私は自信を取り戻しました。多くの者が私同様に先生の暖かい言葉に元気づけられてきました。

お話しさせていただくうちに、棚瀬一代先生が理想とし、私共が目指す親子の絆が大切にされる社会への転換は、考え方がとても近いとすぐ感じました。

そうした社会を日本に築きたいと国会議員のもとを回っていた私をいつも優しい声で先生は勇気づけてくださいました。地道な活動も実り始め、今年2月20日に、永田町の衆議院会館の300名は優に入る最大の会議室で、院内集会を開催することになりました。

私は、新しい時代への幕開けの唯一の講師は棚瀬一代先生にお願いするしかないと考え、先生に快諾いただきました。

当日は50名を超える国会議員、秘書の方々、多くのマスコミや100名を超える全国からの当事者も集まりました。

棚瀬一代先生の講演は素晴らしく、多くの国会議員に日本も変わらなければならないとご理解いただきました。多くの質問にも優しい声で的確にお答えになられ、子どもの最善の利益のために日本は変わらなければならないと力説されていました。

この場で超党派の議員連盟が立ち上がることが決まりました。先生は、「大成功裡に終わることができ、私もとても嬉しく思いました。子どもたちが「虐待」にもあたるほどの深い傷を負う可能性に社会がやっと気づき始めたと言えます。今後の息の長い活動がきっと社会を変えていくものと信じています。」というメッセージを私にくださいました。

3月4日には横浜の「子どもの虹情報研修センター」で児童虐待防止のために講演をされ、その数日後に体調を崩されて入院することになったとのご連絡をいただきました。最後まで子どもの幸せのために活動されていました。

先生のお力で立ち上がった親子断絶防止議員連盟は、3月18日に設立総会を、5月20日に第2回目の総会を無事終えました。

先生にはここぞという重要な場面で、議員連盟の講師としてもご登壇いただくことで快諾いただいております。

この悲しみから抜け出すには、まだ多くの時間を要すでしょう。しかしながら、先生のお蔭で立ち上がったこの大きな動きを止める訳にはいきません。

先生の著書、講演、頂戴したお言葉、メッセージは、今後の私共の人生の指針となるでしょう。

私共は先生にお会いできて幸いでした。先生のお考えの「子どもの最善の利益を実現する社会への転換」を私共は必ず引き継いでいきます。

残念ですが、お別れを言わねばなりません。
棚瀬一代先生、さようなら。どうぞ安らかに眠りください。

平成26年5月24日

親子断絶防止法全国連絡会
一同代表 平田 晃久